

Glocal Tenri



4

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.16 No.4 April 2015

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
太陽光発電
／深谷忠一 1
 - ・ 天理教教理史断章 (91)
近愛文書②
／安井幹夫 2
 - ・ 『教祖伝』探究 (10)
「大和神社事件」探究
／深谷忠一 3
 - ・ 「おふでさき」天理言語教学試論～「こ
と」的世界観への未来像～ (12)
第1章「もの」と「こと」の意味論⑩
／井上昭夫 4
 - ・ 「元初まりの話」に登場する動物たち (1)
「うを」について①
／佐藤孝則 5
 - ・ 「おふでさき」の有機的展開 (36)
第六号：第五十五首～第七十九首
／深谷耕治 6
 - ・ 「おさしづ」語句の探求 (4)
『天理教教典』における「道」②
／澤井治郎 7
 - ・ 新宗教のブラジル伝道 (24)
日本の新宗教の組織的展開⑧
／山田政信 8
 - ・ 地域福祉を拓く ―新たな寄付文化の創
造― (4)
地域福祉の推進主体と「寄付」
／渡辺一城 9
 - ・ ライシテと天理教のフランス布教 (2)
ライシテとは何か?②
／藤原理人 10
 - ・ ヴァチカン便り (13)
法王、スリランカとフィリピンへ
／山口英雄 11
 - ・ 開講 20周年記念・公開教学講座 (5)
第4講：ひのきしん
／堀内みどり、八木三郎 12
 - ・ English Summary 13
 - ・ おやさと研究所ニュース 14
- 第61回伝道研究会 (1月29日)「ニューヨー
ク天理文化協会紹介」／第279回研究報告
会 (2月10日) 李京源 (韓国・大真大学大
巡宗学系教授)「天理教の研究調査に際して」
／第3回宗教研究会 (2月18日)「日本の
宗教とセクシャルマイノリティ」／「教学
と現代11」第2回第1講：曾山俊「ロシア
/ウクライナ伝道の現在」／新連載執筆のね
らい (佐藤孝則)／「開講 20周年記念・公
開教学講座」／『グローカル天理』合本
のご案内／「出前教学講座」申し込み受付
／研究所ホームページのご案内

巻頭言

太陽光発電

おやさと研究所長 深谷忠一 *Chuichi Fukaya*

地球の1日の半分が夜であり、日中
も雲が出て雨が降ったりすることで、人
間が生存するのに適した気温が保たれて
います。しかし、その環境 (太陽光量) で、
太陽光発電が普及するには、種々難し
い問題があります。

具体的には、まず、時間や天候による
出力の変動に対応するための蓄電池に、高
額な材料費が必要なため容易には普及し
ない、という問題があります。また、電
圧が急激に変わらないキレイな電気が日
本の精緻な工業生産を支えているので
すが、太陽光発電の不安定な発電を補うた
めの配電や変電システムの増強は、費用
対効果を考えれば難しい。それで、結局は、
太陽光発電のバックアップのための火力
発電所をなくすことができない。そのた
め二重の設備投資が必要で、電気代が高
止まりするのです。

政府のコスト等検証委員会 (10年モデ
ル) の発電費用の試算では、石炭火力や
LNG火力の1kw/hあたり9.5円～11.1
円に対して、太陽光発電は33.4円～38.3
円。また、公益財団法人・地球環境産業
技術研究機構の試算 (13年) では、29.8
円になると報告されています。いずれの
試算を見ても、太陽光発電では経済的に
成り立たないのです。

そこで、この高コストの差額分を電気
代に加算して (消費者が負担)、太陽光
発電を普及するために導入されたのが、
「再生可能エネルギー固定価格買取制度
(FIT)」です。太陽光発電の純粋な発電価
格に、「プレミア利潤」 (買取価格と実際
のコストの差額=13年の計算で約6円=
業者の利潤) を上乘せし、電力会社に強
制的に買わせる (結果電気代が高くなる)
ことにしたのです。その結果、絶好の商

機だと通信大手やコンビニ大手などの企
業が太陽光発電事業に参入したのですが、
法律で保証されている利潤がある限り、携
帯電話事業のような企業間の価格競争が
起きることはなく、太陽光のパネルの数が
増えるにしたがって、電気代が高くなる図
式になっているのです。

このように、効率・経済的に問題の多
い太陽光発電ですが、それ以上に心配なの
は環境問題です。駆動軸がなく壊れにく
いと言われる太陽光パネルでも、20年
の間灼熱の太陽や風雨に曝されれば、必ず
経年劣化が起きます。潮風、黄砂、鳥の糞
害などによる劣化も、さらにその寿命を縮
めます。しかるに、パネルはガラス・アル
ミ・セル・EVAなどの複合構造ですから、
リサイクルはまず不可能。破棄するにしま
しても、パネルには大量のリチウムやニッケル
といったレアメタルが使われ、そのレアメ
タルを抽出するために毒性の強い化学物
質が大量に使われていますから、(生産国
での自然破壊の悪化も心配です) 簡単には
いかない。10～20年後には必ず排出さ
れる膨大な量の産業廃棄物を、“自然の何
処へも負荷をかけずにいかに処分するの
か”が大問題になると思われるのです。

現在の太陽光発電では、100万kw/hの
出力を出すのに、大阪環状線内の面積の
1.5倍にパネルを並べる必要があります。
日本の (13年度) の総発電量は9,397億
kw/hですから、太陽光発電が基幹電源に
は成りえないことは明らかです。

“太陽、自然、再生可能”など、響きの
よい言葉に惑わされることなく、太陽光発
電の実際についての冷静な判断をする。そ
れが、これからの日本 (世界) のエネルギー
問題を考える上で、とても大事なことで
はないかと思う次第です。